

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
発行人・編集人
三木 勉

印刷部数11万3700部
(購読料は組合費のなかに含まれています)
(年間購読料 千八百円)
定価 五十円



東京土建のホームページ http://www.tokyo-doken.or.jp/

建築力レッジ
入学生募集中
東京建築力レッジ2018年度入学生の募集が始まっています。第3回募集の学校説明会を11月21日に開催します。参加希望の方は事前に力レッジ(電話5950-1177)へご連絡ください。

政治を変えるチャンス

中央執行委員長
松丸一雄

秋も深まって肌寒くもなり、拡大月間も最終盤を迎えています。大きく強い組合をつつて、建設産業に影響力を高め、様々な要求を実現していくことは東京土建の伝統です。引き続きご協力をお願いします。

安倍首相は所信表明もせずに国会を解散しました。前代未聞、まさに「モリ・カケ」疑惑を隠す、民意と国会のルールも無視した解散です。

平和くらし守る一票 衆議院選挙で要求実現を

断し、このタイミングで解散して政権を延命し、長期戦に臨んで新たな改憲勢力を取り込むつもりでいるものと思います。



松丸一雄委員長

「丁寧な説明をしていく」と約束したことも全く忘れ去っています。国民を馬鹿にしているのでしょうかということがあります。安倍政権は憲法9条の改憲をしようと計画してきましたが、国民の反対世論と運動は予想以上に根強く、そう簡単ではないと判断

今回の選挙の最大の争点は憲法9条を守るか、改憲に道を開くかです。9条改憲は6割の国民が望んでいません。平和と憲法を守る草の根からの市民運動が大きく発展していますが、東京土建は「建設産業は平和でこそ成り立つ」「戦争の工事はしない」ことをスローガンに掲げて、市民運動とも連帯して取り組んでいます。

もう一つの争点は消費税10%増税です。首相は増税分の財源5兆円を教育費の一部無償化などに向けることを、唐突に公約の目玉にしています。増税を前提としながら増税批判をかます策です。

低所得者に重く、格差と貧困を広げるものです。消費税が8%上がった14年春以降のように、消費減退・景気低迷が続くことは目に見えています。消費税は内部留保を過去最高に膨らませている大企業から取り、教育や社会保障の拡充に振り向けることが根本的な政策として求められます。

今度の選挙にあたって私たちは次の要求を掲げました。

○憲法を守ること。平和と立憲主義、国民本位の政治に。○軍備増強よりも社会保障制度の拡充、消費税増税撤回。○原発再稼働反対、核兵器禁止。○社会保障と教育の負担軽減。○建設国保の育成強化。建設技能者の大量育成。○建設従事者の権利確立、大幅賃上げ。中小建設業者に仕事

がまわる仕組みと減災防災のまちづくり・すまいづくり促進。などです。

これらの要求が実現するかは政治の動きによって大きく左右されます。選挙はとてむ切です。よく見極めて、棄権の無いよう、すべての仲間とご家族のみなさんに投票を呼び掛けるものです。

若手も決意し2人拡大

第六次行動が始まる10月11日、三鷹武蔵野支部には上連雀分会の仲間たち6人が集まり、組合員訪問行動へ。拡大



70周年土建祭りに仲間を誘う小野寺分会長(左)

グッツも、持って歩くのには少し重たいのではという意見が出ていたこれまでの石けん・タオル・入浴剤のセットからのりたまふりかけにリニューアルして、足どりの軽く出発しました。

上連雀分会は、10月1日に「武蔵野スイングホール」で行なわれた支部拡大中間決起集会で、初参加した若手組合員が成果持ち寄り「達成に向けて頑張りたい」との決意表明で会場を盛り上げました。

その言葉とおり、その後、仲間が支部に来て従業員2人を加入させて月間目標を達成しました。加入の理由は10月29日に開催予定の支部主催による集団健診を受けさせたいからとのこと、以前の訪問で渡した健診チラシを見て加入に結びついた例です。報告を聞いた皆さんは喜びましたが、もちろん訪問行動はやり続けられます。

月間後半戦へ奮闘 交流会でリフレッシュ

杉並支部では、今年の秋の拡大月間に2回、「センター交流会」と銘打った懇親、リフレッシュの場を設けています。10月11日は、堀ノ内分会では2回目の取り組みです。



焼肉と酒で交流が深まる堀ノ内分会の仲間

「今夜参加している若い仲間も繰り返して声をかけて、気軽にきてもらえるようになりました。若い世代に組合活動を引きついでいくのが、私たちの役割ですから」と話すベテランの書記長の國分次夫さんは、センターから未加入者にも「仕事が終ったから、来てみない」と声掛けにも余念がありません。

白い煙が立ち込め、肉の焼けるいい匂いが広がっています。「向うの角を曲った所でも匂ってきたよ」と常設センターにやってきた仲間も笑顔です。

朝やけ

■放送を語る
会がNHKと民放各社へ「2017年総選挙に際し、豊かで充実した選挙報道を求めます」とした申し入れ書を出した。各政党・立候補者の主張を丁寧に伝え、違いを明らかにする政策・争点中心の報道などを要請している。放送を語る会は昨年の参議院選挙の報道もチェックしており、改憲が争点であることは明らかなのに取

り上げない番組があったなどの問題点を指摘し、「選挙報道がじりじりと後退していく現状は憂慮すべきもの」とコメントしている。

■放送倫理・番組向上機構も今年の2月に「2016年の選挙をめぐるテレビ放送についての意見」を発売し、「真の争点に焦点を合わせて、各政党・立候補者の主張の違いとその評価を浮き彫りにする挑戦的な番組が目立たないことは残念」と現状を批判した。

■各政党代表の訴えを垂れ流すだけの報道では意味がない。安保法制、改憲、原発再稼働、経済政策、森友・加計問題、北朝鮮問題などの争点で対立軸がどこにあるのか示すべきだし、それぞれの政策の実行によって、私たちの暮らしはどうなるのか、平和は保たれるのか、多角的な視点での調査報道を望みたい。短い選挙期間にどれだけ豊かな情報を視聴者に提供できるのか、放送の存在意義が試されている。